

# 日蓮大聖人御書全集

たいふのさかんどのごへんじ

## 大夫志殿御返事

ふほうぞうれつき こと

(付法蔵列記の事)

新版  
1504  
〜  
1506

たいふのさかんどのごへんじ ふほうぞうれつき こと

# 大夫志殿御返事 (付法蔵列記の事)

こうあん ねん

弘安 3 年 ( '80 )

59 歳

池上宗仲

こそでひと

ひたたれさんぐ

おな

こしさんぐとううんぬん

こそで

しちかん

小袖一つ、直垂三具・同じく腰三具等云々。小袖は七貫、

ひたたれ

こし

じっかん

いじようじゆうしちかんもん

直垂ならびに腰は十貫、已上十七貫文に

あ

当たれり。

そ おも

てんだいだいし

おんくらい

しようあんだいしあらわ

い

夫れ以んみれば、天台大師の御位を章安大師顕して云

しかん

だいいち

じよ

もん

ひ

い

あんぜん

け

わく、止観の第一に序の文を引いて云わく「安禅として化す。

くらいごほん

こ

ゆえ

きよう

い

しひやくまんおくなゆた

くに

ひと

位五品に居す。故に経に云わく『四百万億那由他の国の人

ほどい

いちいち

みなしつぼう

あた

け

ろくつう

え

に施すに、一々に皆七宝を与え、また化して六通を得しむ

しよずいき ひと

ひやくせんまんばい

るすら、初随喜の人にしかざること百千万倍なり』と。い

ごほん

もん

い

すなわ

によらい

つか

によらい

わんや五品をや。文に云わく『即ち如来の使いにして、如来

つか

によらい

じ

ぎよう

とううんぬん

でんぎようだいし

に遣わされて、如来の事を行ず』と』等云々。伝教大師、

てんだいだいし

しやく

い

いま

わ

てんだいだいし

ほけきよう

と

天台大師を釈して云わく「今、吾が天台大師、法華経を説

ほけきよう

しやく

ぐん

どくしゆう

とう

どっぽ

うんぬん

き法華経を釈すること、群に特秀し唐に独歩す」云々。

い

あき

し

によらい

つか

ほ

もの

また云わく「明らかに知んぬ、如来の使いなり。讃むる者は

ふく

あんみよう

つ

そし

もの

つみ

むけん

ひら

うんぬん

福を安明に積み、謗る者は罪を無間に開く」云々。

によらい

お

めつご

いちにち

しろうぞうまつ

如来はしばらくこれを置く。滅後の一日より正像末

にせんにひやくよねん

あいだ

ほとけ

おんつか

にじゅうしちにん

二千二百余年が間、仏の御使い二十七人なり。いわゆる、

だいいち だいかしやう だいに あなん だいさん までんち だいいし しようなわしゆう  
第一は大迦葉、第二は阿難、第三は末田地、第四は商那和修、  
だいご きくた だいろく だいたか だいしち みしやか だいはち ぶつだなんだい  
第五は毬多、第六は提多迦、第七は弥遮迦、第八は仏駄難提、  
だいく ぶつだみつた だいじゆう きようびく だいじゆういち ふなしや だいじゆうに  
第九は仏駄密多、第十は脇比丘、第十一は富那奢、第十二  
めみよう だいじゆうさん びら だいじゆうし りゆうじゆ だいじゆうご だいば  
は馬鳴、第十三は毘羅、第十四は竜樹、第十五は提婆、  
だいじゆうろく らご だいじゆうしち そうぎやなんだい だいじゆうはち そうぎややしや  
第十六は羅睺、第十七は僧佉難提、第十八は僧佉耶奢、  
だいじゆうく くまらだ だいにじゆう じゃやな だいにじゆういち ぼんだ  
第十九は鳩摩羅駄、第二十は闍夜那、第二十一は盤駄、  
だいにじゆうに まぬら だいにじゆうさん かくろくやしや だいにじゆうし しし  
第二十二は摩奴羅、第二十三は鶴勒夜奢、第二十四は師子  
そんじゃ にじゆうしにん こんく き ふほうぞうきよう  
尊者。この二十四人は金口の記するところにして付法蔵経  
の しょうじよう こんだいじようきよう おんつか  
に載す。ただし、小乗・権大乘経の御使いなり。いま

ほけきょう おんつか  
だ法華經の御使いにはあらず。

さんろんしゅうい

どうろう

きちぞう

ほとけ

つか

ほつそうしゅうい

三論宗云わく「道朗・吉蔵は仏の使いなり」。法相宗云

げんじょう

じおん

ほとけ

つか

げこんしゅうい

ほうぞう

わく「玄奘・慈恩は仏の使いなり」。華嚴宗云わく「法蔵・

ちようかん

ほとけ

つか

しんこんしゅうい

ぜんむい

こんごうち

澄観は仏の使いなり」。真言宗云わく「善無畏・金剛智・

ふくう

けいか

こうぼうとう

ほとけ

つか

不空・恵果・弘法等は仏の使いなり」。

にちれん

かんが

い

まった

ほとけ

つか

まった

日蓮これを勘えて云わく、全く仏の使いにあらず。全

だいししょうじょう

つか

くよう

わざわ

まね

く大小乗の使いにもあらず。これを供養せば災いを招き、

ぼう

ふく

いた

これを謗せば福を至さん。

と

なんじ

じぎ

問う。汝の自義か。

こた い じぎ うもんうぎ  
答えて云わく、たとい自義たりといえども、有文有義な

なん とが しゃくあ でんぎようだいし  
らば何の科あらん。しかりといえども、釈有り。伝教大師

い ふく す つみ した もの うんぬん ふく  
云わく「なんぞ福を捨てて罪を慕う者ならんや」と云々。「福

す てんだいだいし す ひと つみ した  
を捨つ」とは、天台大師を捨つる人なり。「罪を慕う」とは、

かみ あ ほつそう さんろん けごん しんごん がんそとう  
上に挙ぐるところの法相・三論・華嚴・真言の元祖等なり。

か しよし す いっこう てんだいだいし くよう ひと  
彼の諸師を捨てて一向に天台大師を供養する人の、その福

いまもう  
を今申すべし。

さんぜんだいせんせかい もう どうぎいなんぼく いちしゆみせん ろくよく ぼんてん  
三千大千世界と申すは、東西南北・一須弥山・六欲・梵天

いちしてんげ 名 ひやくおく しゆみせん ししゆうとう しょうせん い  
を一四天下となづく。百億の須弥山・四州等を小千と云う。

しょうせん せん ちゅうせん い ちゅうせん せん だいせん もう  
小千の千を中千と云う。中千の千を大千と申す。この

さんぜんだいせんせかい ひと しひやくまんおくな ゆ た こく ろくどう  
三千大千世界を一つにして、四百万億那由他国の六道の

しゅじょう はちじゅうねん 養 ほけきょう ほか いこんとう いっさいきょう  
衆生を八十年やしなひ、法華經より外の已今当の一切經

いちいち しゅじょう どくじゆ さんみようろくつう あらかん  
を一々の衆生に誦誦せさせて、三六通の阿羅漢・

しゃくしぶつ とうがく ぼさつ いちにん だんな せけん しゅつせ たから  
辟支仏・等覺の菩薩となせる一人の檀那と、世間・出世の財

いちぶん ほごこ ひと ほけきょう いちじ いつく いちげたも  
を一分も施さぬ人の法華經ばかりを一字・一句・一偈持つ

ひと あいたい くどく ろん ほけきょう ぎようじや くどくすぐ  
人と相對して功德を論ずるに、法華經の行者の功德勝れた

ひやくせんまんおくばい てんだいだいし すぐ ごばい  
ること百千万億倍なり。天台大師これに勝れたること五倍

ひと くよう ふく しゅみせん 積 たも  
なり。かかる人を供養すれば福を須弥山につみ給うなりと

でんぎようだいし

判

たま

そうろう

よし

にようぼう

もう

伝教大師ことわらせ給いて候。この由を女房には申さ

たま

きようきようきんげん

せ給え。恐々謹言。

花押

かおう

たいふのさかんどのごへんじ

大夫志殿御返事